新COO

特殊金属エクセル 水谷 徳次郎氏

精密金属材料で顧客支える

「組織間連携世界一を目指す」

特殊金属エクセル（本社・東京都豊島区、社長・谷口毅氏）は特殊鋼・ステンレス・各種合金の精密冷延技術を核に諸要素技術を複合し、高難度の精密金属材料を開発・生産する。1月に国内外のグループを含む材料事業の指揮を執るCOO（最高執行責任者）に就任した。

スリット加工の技能員を長年務め、40歳を過ぎて役員として奮闘しながら高校から大学院まで卒業した。「現場の叩き上げの限界を知り、クールでロジカルな思考を求めた。現場より経営を知り、経営より現場を知る。窮地に頼られる『最強の中間管理職』でありたい」という。

「永遠に時を刻む時計をつくる」と誓う。今年は創業77周年を迎える。「世の中に必要とされる材料やサービスがあれば、企業は永遠に継続できる。100周年を迎えた時、『組織間連携世界一だからです』と社員が言える会社にしたい」。

ミクロン単位の精密材料を生産し、葉書サイズでも仕事を受け、5万種類の特注品で自動車や精密機器を支える。「Be a Niche―Top」を旗印に車載、モバイル、医療など高付加価値分野を追求し、他社が造れない材料を提供して「顧客を市場の勝利者にする」ことを陰で支える。社外には「できないと言われた時、不可能と思った時、もしこんな夢のような材料があれば未来が変わるとワクワクした時、私たちを思い出してほしい」とメッセージを送る。

リーマンショック後の受注急減期、経営陣は「どう生き残るかが大事」と全従業員の雇用を守った。これ以降、高い目標を掲げ、現場が自主性を高め、果敢に挑戦する風土に一段と磨きがかっている。

社員には「目標とは高い壁であり、戦略とは壁を乗り越えるための足場であり階段。目標と戦略があれば、あとは愚直な実行あるのみ」と説き、「高い壁を乗り越えた時、その壁はあなたを守る砦となる」というガンジーの言葉を添える。

「責任とは取るものではなく果たすもの」が信条で「リーダーに一つだけ仕事があるとすれば、人の心に火をつけること」が好きな言葉だ。趣味は庭造りと孫と遊ぶこと。

（谷山　恵三）

略　歴

水谷　徳次郎氏（みずたに・とくじろう）13年産業能率大学大学院総合マネジメント研究科修了。1986年（昭61）特殊金属工業（現トッキンHD）入社、2006年執行役員、10年取締役、14年常務。17年1月特殊金属エクセル取締役COO兼任。1964年2月生。